

以下のメモは中学生 2 名の総合学習用に準備したものである。

エコライフはままつ 理事 大野嘉章

#### 訪問者の属性確認

浜松出身か、ふるさとは？

海外経験は？（日本と異なる生活習慣を経験したことがあるか）

#### 自己紹介:経歴>

育った環境が自然豊かな環境ではなかった。（東京池袋）

生物は得意科目ではなかった。

物理学を選択した>湯川さんの名を聞かされて育ち、朝永さんに憧れて専門を決めた。

工業が人々の生存環境を脅かす四大公害裁判（水俣病、新潟水俣病、四日市ゼンソク、イタイイタイ病）を知る>科学技術による生活環境の破壊、健康被害の発生  
>誇りを持って進学した大学は公害企業を擁護し、その解明を妨げる側にあった  
>職業として公害行政を選択した。

化学を学んだ妻、物理を学んだ私、共に自然科学分野から公害問題、環境問題に関わって仕事としてきた。

#### 都市内の自然とのかかわり

練馬区役所在勤中環境学習のフィールドとして都市内の公園を活用した。

都市の公園も原生的自然に劣らず貴重>関わる人々の日常生活を支え、人格形成に寄与する。

市民の五感による環境表現を重視した（物理化学的指標ではなく）。

#### 環境教育に関わって大きく変わった。

工場が発生源となっている公害行政の時代>市民生活活動が発生源になっている環境行政の時代

市民は環境の受け手であるだけでなく、市民は環境の作り手だ、という認識

自然科学的環境観から劇的に環境を見る目が変わった。

環境を形成する市民の対環境行動の重視>市民の対環境行動を規定する市民の環境認識  
>五感による環境認識>環境認識を深める環境表現>市民の持っている環境表現手法  
>絵画、写真、随筆、詩、俳句、曲、などなど

環境を文化としてとらえる視点>私たち二人の態度が自然科学から文化にシフトした  
>サロンの喫茶店

専門家より市民の環境認識、対環境行動がより重要な時代になった

部分の知識に陥りがちな専門家よりも、市民の方が環境の全体をよく知っていることもある

たとえば、佐鳴湖を毎日のように歩く市民は、朝昼晩の違い、季節による違い、雨を含めて天候による違い、そこに現れる生き物の姿、景観の美しさの全体を知っている。

専門家が知っているのは部分に過ぎない。

### 「自然を守る」の違和感

自然は自分の外にあって守る対象か？ >むしろどれだけ自然を心の中に持って生きているか、生活しているかが大切なのではないか

### 自然は、美しさ、やさしさ、心和ませる存在か？

村上陽一郎はフランス文学に現れた「自然」の意味を調べた。

時代を遡ると「文明化されていない」「垢抜けしない」「粗野な」というネガティブなイメージで使われている。

人の手が加わっていない自然は、劣位に意識されていた。

### 自然破壊とは

一切の手を加えないことか

改変は許されないか

古代から近世まで塩田開発が白砂青松の松林を作った > 日本の海岸風景のシンボルとなっている >しかし、海水を煮詰めるために沿岸の樹木を切り倒し燃料として燃やしてしまった「環境破壊」の結果でもある。

伝記に現れた望ましい日本人像

和井内貞行 > 十和田湖のヒメマス養殖、東北の寒村に養殖産業を興して貧困から救った > もともと十和田湖には居なかった生物を持ち込み本来の生態系を乱した。

> 貧栄養湖として透明度の高かった十和田湖の水質を悪化させた。

金原明善 > 天竜美林の造成 > 原生的植生の人為的改変

新田開発 > 原生的植生の人為的改変

自然と共に人々はどう生きてきたかを表わしている。 > 「生態系の破壊」

何を正義と考えるか。

### 尊敬する方々とその著作(貸与)

宇井純 東大助手 > 沖縄大学教授 水俣病告発 公害原論 > 私たち夫婦の原点  
田尻宗昭 海上保安官 公害Gメン 四日市工場排水告発 後に東京都公害局規制部長 > 妻の元上司

レイチェル・カーソン センス・オブ・ワンダー

富山和子 自然環境を生業とのかかわり、文化としてとらえる

嘉田由紀子 滋賀県琵琶湖研究所学芸員 琵琶湖博物館館長 滋賀県知事 環境社会学 ホタルダス

藤本和典 野鳥「感」察 自然を要素として出なく全体としてとらえる エコツアー コスタリカ 子ども科学電話相談(NHK 回答者) 野鳥の宝庫佐鳴湖を案内した

#### 用意した提供資料

妻の仕事の一部>青い空が好き

私の仕事の一部>ねりま・鐘の音マップ 開進一中

#### 市民の自然表現事例(貸与)

自然と向き合って写真を撮り、水彩画を描く事例を紹介。

#### その他、話題用

##### 軽井沢のホテルの例

野鳥に親しむのは好きだが、虫に刺されるのはイヤ>ホテルのロビーのガラス越しの野鳥観察(鳥の姿を見ることができ、虫には刺されない)>鳥の鳴き声が聞こえないので、ロビーの外側の集音マイクで鳥の鳴き声リモートセンシング、ロビー内のスピーカーで再生する。>大好きな野鳥は大嫌いな虫を食べて生きている。

##### 北欧旅行

シベリウス公園>芸術家の名を冠する公園の存在>ラウドスピーカーで音楽を流さない。静かな都市内の林。>静けさは一人の妨害で壊される脆弱性>静けさが維持されている=静けさを守ろうとする価値観が共有されている証。  
ニールス・ボーアと公園でのひらめき>デンマークの原子物理学者ボーアは解けなかった問題の解を公園のベンチで(研究室の中でではなく)ひらめいた。  
>自然には呪縛を解く力がある。

##### 豊かな生活

北欧の人たち=自然の中での 1 ヶ月のバカンス<>私たち日本人の 10 日間 4 カ国駆け足ツアー

##### フィヨルド地域の生活者の視点、観光客の視点

オスロの美術館で見たノルウェー人の好きな絵の構図=船出>目は大洋に向いている。北海に出れば豊かな水産資源があり、ヨーロッパの文化とつながる海路がある。

ノルウェー観光をする海外のツアー客はノルウェーの岩山をくりぬきつづら折りに刻まれた観光道路を走る。高い峰から氷河、雪渓、フィヨルドを鳥瞰する。

生活者と観光客は見る目の位置が違う。見ている風景が違う。風景に根差した文化を理解できるか。

##### 観光産業

文化の理解より、自然環境を観光資産として売る選択をしてはいないか

自然保護概念を説明する

コンサベーション

プロテクション

レストレーション

科学者や市役所は晴れた日の特定の時間しか佐鳴湖を見ていない。数値指標として表現できる把握の仕方に偏っている。

あなた自身の佐鳴湖を見つけて欲しい。

歩いて現場で考えて欲しい。